

宮原小では、学校と地域が一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」をめざしてコミュニティ・スクールの取組を推進しています。学校運営協議会を設置し、学校運営にいろいろなご意見をいただきながら、地域の皆様や保護者の皆様と力を合わせて、子供たちの豊かな心の育成や学力の向上に取り組んでいます。



宮原小学校におけるコミュニティ・スクール(宮原小CS)の取組

宮原小CSの取組の方針

宮原小CSでは、学校と地域住民が連携・協働して、学校教育目標「自ら考え、正しく判断し生き生きと学ぶ、宮っ子の育成」の具現化のために、以下のことに取り組んでいます。

- ① 子供のよさを認め、ほめ、励まし、地域の一員として活躍する体験をさせる
- ② 将来を担う人材育成を主眼に、子供も大人も共に学び育ち合う活動に取り組む
- ③ 学校を核として、『宮原のよさ（自然・食・文化・伝統・歴史・共生）』を学び、「愛校心」や「郷土愛」を醸成するとともに、それを基盤として自分を見つめさせ自信を持たせる

子供たちの生活習慣づくりのために

子供たちの規範意識を育て、他の人とコミュニケーションをとろうとする態度を育てるために、あいさつ運動一斉行動の日（毎月15日の朝）に、地域の方々や保護者が通学路に立って子供たちとあいさつや言葉を交わします。

これは氷川町全体での取組でもあります。



一人一人の児童の学力保障のために、CS委員や地域の方が学習支援に入る「輝塾」に取り組みました。また、PTAと連携し家庭学習の習慣化や望ましい生活習慣の習得を目指す「ノーテレビ・ノーメディアデー」に取り組みました。これは、保護者による朝の校門でのあいさつ運動の際に、児童は自分が挑戦するコースにシールを貼って宣言します。その翌日は、テレビやゲームではなく学習や読書、家族との会話などをして1日を過ごすことで、望ましい生活習慣づくりや家族の団らんのきっかけづくりにしています。



毎週木曜日の朝、宮っ子タイムと称して、「フッ化物洗口」と「読み聞かせ」を実施しています。

「フッ化物洗口」は、地域の方や保護者ボランティアの方からカップに入った洗口液を児童が受け取り、口に含んで1分間のブクブクうがいをします。

また、その後、読み聞かせボランティアの方による本の読み聞かせが行われています。

歯を大事にしようとする意識や態度の育成、本への関心や読書習慣の育成に取り組んでいます。



学校と地域の交流を促進するために

「わくわくふれあいフェスタ in 宮原小」では、地域の方を講師として招き、地域の「自然」「伝統」「文化」「食」「歴史」「共に生きる」の6つのテーマから9つのコースを作り、親子で体験活動を行います。宮原小CSが主体となって、PTAの委員の皆さんと連携しながら活動内容を考えたり準備をしたり、当日は委員自らが講師を勤めたり、進行をする等、運営に深く関わりました。



また、宮原小CSでは、地域の一大行事である「三神宮秋季例大祭」を迎えるにあたり、「子供たちを『お客さん』にしない取組」「参画するための工夫」について熟議しました。そして、「例大祭に子供たちが参画する目的・意義」を確認し、子供（高学年）向けに「祭りの由来と祭りかける思いについて」、大人（子ども会会長）向けに「祭りを通して子どもたちや親世代に伝えたいこと」と題した講話を実施し、参画意識を高めました。また、各地区では子供たちが主体となって準備・練習に取り組み、これまで以上に盛り上がりが見られました。



【西日本新聞2017.10.14】



宮原小CSの成果と今後の可能性 ～「将来の担い手を育む学校づくり」～



宮原小CSが主体となり、児童・教職員・保護者・地域をつなぐ取り組みを実施することで、「地域とともにある学校づくり」「将来の地域の担い手を育む学校づくり」を推進することができました。

また、CS委員が主体的に学校を取り巻く各組織と連携・協働し、学校の課題解決に参画していただきました。

特に、フェスタの開催にあたり、CS全委員で熟議を重ねた「防災頭巾」の取組が、その後、全町的な取組に発展したことは、今後の大きな可能性につながると思います。